

嫌われものコウモリ

札幌市医師会
特別養護老人ホーム もなみの里 医務室
やまじ せいいち
山地 誠一

これを書いている今、オミクロン株が日本列島で荒れ狂い、新聞紙上では「感染者数が過去最多」の文字が躍っています。この駄文が掲載される頃には落ち着いていることを期待していますが、もっと毒性の強い変異株が出てくるかもしれず楽観できません。

このウイルスが武漢で「発生」した事は間違いありませんが、コウモリを介して他の動物が感染し、これを市場で売ったために広がったのか、ウイルス研究所から何らかの原因で広がったのか、真実は分かりません。しかし報道を制限し、国民に真実を知らせない。真実を知らせようとする者を排除する。私権を無視した都市封鎖。強権的な中国政府のやり方は、面子の問題だけでなく、何かを隠すためと感じたのは、私だけでしょうか。中国「共産党」が指導する「社会主義」の国、中国。「中国政治の根本を支配しているのは依然としてイデオロギーだ。マルクス・レーニン主義であり、毛沢東思想だ」という人がいますが、本当でしょうか。共産主義とは、資本主義の価値ある成果を全て引き継いで、民主主義と自由、豊かな個性をさらに発展させる。思想・信条の自由、政治活動の自由は保障される。と理解していましたが、今の中国はどうでしょうか。東シナ海、南シナ海での覇権主義。香港やウイグルでの人権抑圧。中国「共産党」以外の思想は認めない。これに反対する者を弾圧する。社会主義とは全く無縁なものと思います。

イソップ童話に「卑怯なコウモリ」のお話があります。昔、トリとケモノはいつもけんかをしていました。コウモリは「私はトリの仲間です」と言ったり、「ケモノの仲間です」と言ったり、自分の得になるようにコロコロ立場を変えていました。やがてけんかが終るときがやってきました。コウモリは今まで勝手に立場を変えてきたため、トリにもケモノにも仲間はずれにされ、暗い洞窟で過ごすようになりました。日本の民話にも同じ様な話があり、世の東西を問わず昔からコウモリは卑怯もの、信用できないものとして嫌われていたようでした。

利益だけを重視する資本による大規模森林伐採などの自然環境の破壊により、それまでにない野生動物と人類の接近が、新規感染症発生の原因という説があります。トリでもケモノでもない嫌われもののコウモリが、野生動物を代表して、人間に反撃しているのでしょうか。

北海道の野良猫事情

小樽市医師会
札幌グリーン病院

やました けんじ
山下 謙二

昔からネズミ取りの目的で船に乗せられていた猫は、わが国でも北前船と共に北海道へ連れて来られました。ヒトに捨てられた北海道の野良猫は、本州と違って冬を越すのも困難でした。近年になり、ようやく札幌や小樽にも動物保護団体が設立され、野良猫ゼロを目指して頑張っている近況です。

私は約20年前、小樽の木下病院へ単身赴任していた時、妻の実家の縁の下に住み着いた2匹の猫を保護して育てるため、小樽新光地区の現住所に家を買いました。その後近所の野良猫たちを保護しているうちに「私設動物保護シェルター」となってしまう、勤務先が札幌グリーン病院へ変わっても札幌の家に戻れず、現住所から通勤しています。

私の所属している動物関連団体は、以下の3団体です。

- ①ヒトと動物の関係学会
<http://www.hars.gr.jp/>
- ②NPO法人猫と人を繋ぐ ツキネコ北海道
<https://tsukineko.net/>
- ③NPO法人猫のシェルターアリエル（小樽）
<https://shelter-ariel.com/>

このうち②と③は寄付金で運営されているボランティア団体ですので、皆様の温かい御支援が是非とも必要です。

何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、小樽北勉会へ勤務していた時は、この保護猫さんたちにも活躍してもらい、アニマルセラピーの効果について①で発表させていただきました。

(写真は2011年、特養朝里温泉にて)

